

全学共通科目 学修成果及び学修環境

【全学共通教育】

本学は、「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を建学の精神に掲げ、「自ら考え、行動する、しなやかな知識人の育成」を教育目標としている。この目標の実現を図るため、教養教育を学部教育とともに教育の二本柱としている。

学部教育は専門的な知識を修得することを目的としているのに対し、教養教育に求められることは、多様な学修の基盤となる知識や素養を修得することである。それは、心身を鍛え、直面する諸課題を理解し、その解決に取り組むうえでの知性や判断力といった実践的な能力の基礎となるものである。

[教育目的]

教養教育研究院が運営する教養教育では、以下の目的を掲げる。

- 1、建学の精神に謳われた「真剣味」、すなわち「知育・体育・徳育」のバランスのとれた人間形成を目指す。
- 2、いかなる時代に生き、いかに生きるべきかを考察し、適切な行動を自ら選び取れる市民の養成を目指す。

[学修成果]

教養教育研究院では、以下の成果を目指し、全学を対象に教養教育を行う。

- 1、他者との対話や相互理解を可能にするためのコミュニケーション能力を身につける。
- 2、健康・スポーツの広範な知識を活かし、心身の健康と体力の維持・増進を図る。
- 3、自然・人文・社会科学についての知識を幅広く学修し、自身が生きる世界についての見識を持つ。
- 4、国内外の多様な文化・社会に触れ、現代的な諸課題を多面的に理解し、適切な行動を自ら選び取れる力を身につける。

こうした教養教育を行うことにより、自己の価値観や倫理観を相対化し、国際社会の発展に寄与する市民を養成することが、本学の教養教育の目指すところである。

[学修環境]

上記の教育目的を達成するために、全学共通教育には教養基礎科目、教養発展科目、教養トピック講義、自校教育等の各科目を置く。このうち1年次から履修することができる教養基礎科目では、英語及び第二外国語のコミュニケーション能力の基礎と、諸学の基礎的な知識を幅広くかつ体系的に学修するための科目を設置する。また、2年次又は3年次から履修することができる教養発展科目では、教養基礎科目で培った能力や知識を活用して思考を深めるための科目を設置する。教養発展科目には外国語の応用・演習科目と、アクティブラーニングの比率を高めたテーマ指向型科目、発展ゼミを設置する。教養基礎科目と教養発展科目は、グローバルコミュニケーション、スポーツ・健康、自然の探究、人間の探究、社会の探究、複合領域の6つの分野によって体系化されている。それぞれの分野の学修成果及び学修環境は以下のとおりである。

【グローバルコミュニケーション：英語】

[学修成果]

- 1、読む・書く・聞く・話すという基本的技能を身につけ、場面や状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
- 2、留学や社会活動などの実践の場において、英語によって状況を把握し、情報を発信することができる。
- 3、上記の基本技能を習得することに加え、異文化の多様性を理解・尊重し、それについて自らの意見を述べ

べることができる。

[学修環境]

- 1、学生が自分の語学レベルやニーズに応じたクラスを選択できる。
- 2、学内教育支援システムの活用により、教材を効果的・効率的に配布し、学生の予習・復習を支援する。
- 3、1年次の英語基礎科目（選択必修科目）終了後、より高次の英語運用能力を養うために、各種応用クラスを提供する。

【グローバルコミュニケーション：

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、日本語】

[学修成果]

- 1、読む・書く・聞く・話すという基本的技能を身につけ、場面状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
- 2、各言語圏の文化や社会とその多様性を理解し、それについて自らの考えを述べることができる。
- 3、日本語学修者（留学生）は大学での学修を可能にする高度な日本語運用能力を身につけ、口頭での発表やレポートを作成することができる。

[学修環境]

- 1、言語ごとに、基本的技能を総合的に学ぶ基礎クラスを、1年次に週2回提供する。
- 2、基礎クラス終了後、より高次の言語能力を養うための演習・応用クラスを提供する。
- 3、各クラスにおいて言語能力を養う過程で、それぞれの言語圏の文化や社会について学ぶ機会を提供する。
- 4、日本語学修者には汎用的な日本語能力を高めるための少人数日本語クラスを週4回、大学でのアカデミックな活動に必要な日本語運用能力を高めるためのクラスを週4回提供する。

【グローバルコミュニケーション：講義科目】

[学修成果]

- 1、科学的視点や文化的背景に焦点を当ててことばを捉えることで、ことばへの関心が喚起され、コミュニケーション能力を高めることができる。
- 2、日本及び世界の文化や社会に関する知識を多面的に身につけ、それについて自らの意見を述べるができる。
- 3、世界共通語となった英語の様々な側面－歴史、発音、文法、社会との関わり等－を概観することで、英語に対する新しい見方を身につける。
- 4、多言語多文化社会の現状を理解し、多様な背景を持つ人々との適切なコミュニケーションの方策を身につける。

[学修環境]

- 1、ことばと異文化理解に関わる7科目を開設し、学生自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

【スポーツ・健康：スポーツ実技】

[学修成果]

- 1、各種スポーツ科目におけるルール、マナー、理論を理解し、実践できる。
- 2、自身の運動技能・体力を知り、それをより熟達・改善するための過程を説明することができる。

- 3、他学生や教員と協調し、スポーツや身体運動を実践することで、チームワークを身につける。
- 4、体力や運動技能の個人差を知り、他者と共に楽しみながら、スポーツや身体運動を実践できる。

[学修環境]

- 1、各学生の興味や関心を重視した履修を促すため、広範な科目を、4年間 8 セメスターで開講する。
- 2、学部・学年の枠を超えて学生間の交流を深めるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力を養成する場と機会を提供する。
- 3、安全かつ効率的にスポーツやフィットネスを実践できるように受講者数の上限を定める。
- 4、視覚情報を提供するための機器や生理指標を取得するための機器を利用し、効率的な理論の理解や実践に必要な情報を提供する。

【スポーツ・健康：講義科目】

[学修成果]

- 1、健康管理に必要な知識、最新のスポーツ科学の知見、スポーツと現代社会との関わりについて説明することができる。
- 2、ライフステージや各種疾患を考慮した生活習慣の改善や様々な形でのスポーツへの参画（する、見る、支える）を実践できる知識を身につける。

[学修環境]

- 1、健康やスポーツに関する 3 科目を開設し、学生自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、スポーツや健康に関する科学的な評価指標を取得するための機器や視覚情報を提供するための機器を利用し、最新の知見を効率的に教授する。

【人間の探究】

[学修成果]

- 1、日本及び世界の歴史・文学に関する知見を獲得して、多様な価値観の存在を理解し、自己と他者の文化的背景について説明できる。
- 2、人間の思索や言葉を主たる対象として培われてきた人文科学の手法及び成果を学ぶことにより、論理的な思考力と表現力を身につける。
- 3、人文科学の培ってきた歴史的成果や現代の学際的な方法を学ぶことで、人間の心の本質について深い知見を得ることができる。

[学修環境]

- 1、人文科学の幅広い領域に対応した 18 科目を開設し、学生自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、IT 環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

【社会の探究】

[学修成果]

- 1、現代社会に至る時代感覚を身につけ、法・政治・経済の基本的な理論や内容を理解し、それについて自らの考えを述べることができる。
- 2、グローバル化した現代社会の中で、歴史的・地理的な比較を通して、さまざまな社会事象を把握し、説明することができる。

[学修環境]

- 1、社会科学の領域に対応した 18 科目を開設し、学生が自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、IT 環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

【自然の探究】

[学修成果]

- 1、自然科学及びこれに密接に関係する数学・統計学・ICT（情報通信技術）の基礎知識を身につけ、それぞれの学問の役割を認識し説明することができる。
- 2、数理的に扱うことができる対象が、自然現象を始めとした世の中の事象の中に非常に多くあることを知り、その具体例を説明することができる。
- 3、日常生活におけるさまざまな現象を科学的・数理的な視点から考えることができ、科学的な根拠を取捨選択することができる。
- 4、アルゴリズムを理解し、PC を活用することで情報伝達や問題解決ができる。

[学修環境]

- 1、自然科学・ICT の領域に対応した 15 科目を開設し、学生が自ら関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、実験や野外観察、ビデオなどの視聴覚教材を駆使し、理解の促進に配慮した授業を提供する。
- 3、e-Learning システム、Web サイト、プレゼンテーション・ソフトなどの ICT を利用しながら教材を効果的・効率的に提供する。
- 4、ネットワーク環境下で PC を使用し、Web ページ制作やプログラミングを実習する機会を提供する。

【複合領域】

[学修成果]

- 1、国内外における平和、国際協力、性差（ジェンダー）、環境、情報化社会、そして労働やキャリア形成をめぐる問題など現代社会が直面する諸課題について多面的に理解し、それについて自らの考えを述べるることができる。
- 2、上記の諸課題に関する知識を獲得するにとどまらず、現代社会を生きる当事者としての問題意識を深め、市民としての役割について理解し、自らの考えを述べるることができる。

[学修環境]

- 1、現代社会の直面する課題に関係する 14 科目を開設し、学生が自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、グループ・ディスカッション等を中心にした授業運営により、自らの問題意識や理解を高めあう場と機会を積極的に提供する。
- 3、IT 環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

【発展ゼミ・教養トピック講義】

[学修成果]

- 1、教養基礎科目で培った能力や知識を総合的に用いて、学術的なテーマを自ら設定・調査し、自律的かつ批判的に考察したうえで、創造的な成果を提示することができる。
- 2、時事的かつ専門的なトピックの学修を通じて、社会の発展や問題、事柄を客観的に捉え、それについて

自らの考えを述べることができる。

[学修環境]

- 1、健康科学・自然科学・人文科学・社会科学・複合領域・言語文化の6分野の発展ゼミⅠ、発展ゼミⅡと、時事的かつ専門的なトピックを扱う教養トピック講義を開設し、学生が自らの問題意識をもとに履修選択して学修できる環境を提供する。
- 2、グループ・ディスカッション等を取り入れた授業運営により、能動的かつ自発的な学修機会を提供する。
- 3、IT技術を利用して教材を効果的・効率的に提供する。

【自校教育】

[学修成果]

- 1、中京大学の歴史と現状についての学修を通じて自校についての知識を身につけることができる。
- 2、上記の知識に加えて、日本の経済・社会や中京圏との関係性の中に中京大学の歴史を位置づけることを通して、中京大学の特性について理解し、説明することができる。
- 3、大学における学びを客観的に捉える機会を通じて、社会の中での自らの立ち位置を客観的に捉え、それについて自らの考えを述べることができる。

[学修環境]

- 1、中京大学について関心を持つ学生に自校の歴史・現状・特性について学ぶ機会を提供する。
- 2、レポート執筆の機会を授業内に設けることにより、思考力及び文章力を磨く機会を積極的に提供する。
- 3、グループ・ディスカッション等を随時採り入れる授業運営により、自らの問題意識や理解を高めあう場と機会を積極的に提供する。
- 4、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。